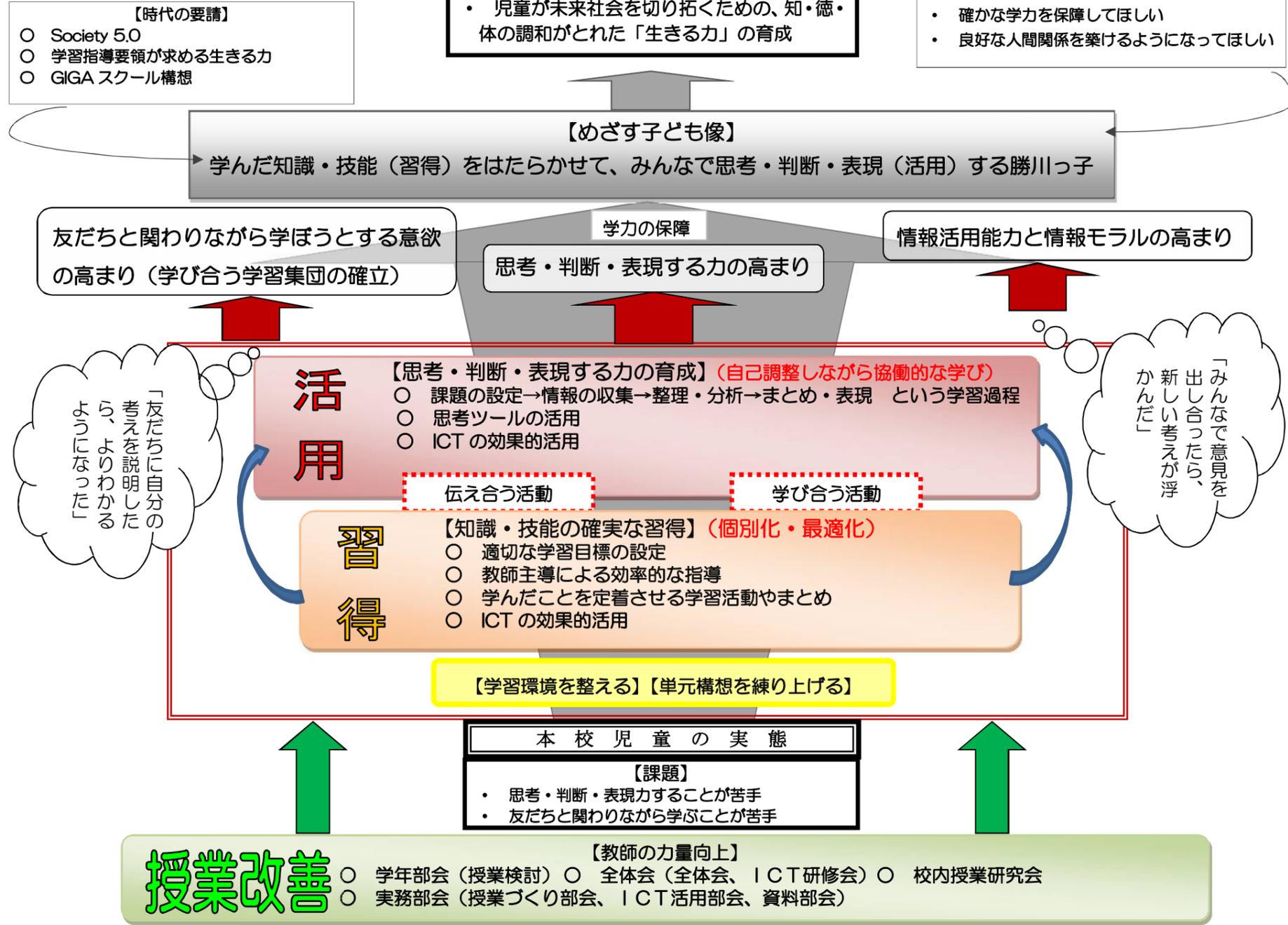


# 研究構想図

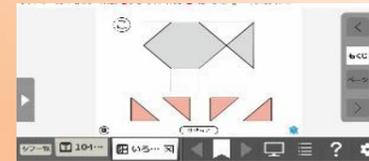


## 習得【知識・技能の確実な習得】

みんなで思考・判断・表現するためには、その土台となる知識・技能が不可欠である。全ての児童が発達段階に応じて、生きて働く知識・技能を習得できるように、適切な学習目標を設定し、効率的な指導（個別化・最適化）が必要になる。

### ○ 効率的な指導（個別化・最適化）

- ・ ICTを効果的に活用する。
- ・ 指導とともに定着させる学習活動が必要であり、ICT活用だけでなく学んだことを話す、書く等の活動を設定する。



## 活用【思考・判断・表現する力の育成】

**課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現という学習過程**

児童が学んだ知識・技能をはたらかせて、みんなで意欲的に思考・判断・表現するためには、探究的な学習過程が必要であり、考えを更新させ、思考・判断・表現する力の育成を図る。

**【課題の設定】**

課題を設定し、課題意識をもつ。

**【情報の収集】**

必要な情報を取り出し、収集したりする。

**【整理・分析】**

収集した情報を整理したり、分析したりして思考する。

**【まとめ・表現】**

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し表現する。

### ○ 思考ツールの活用

#### 適切な思考方法で課題の解決を図る手立て

思考ツールの活用により、思考方法の具体化・可視化を図り、自ら考え、共に課題の解決を図ろうとする態度を養う。



【順序立て考える】



【分類して考える】

## 【学習環境を整える】

市全体の取組として、平成23年度から学習環境を整え ICT を活用し、日常的に授業改善を行ってきた。初任者や職員の異動があっても、戸惑わずに授業が進められる。子どもたちも安心して学習できる。

学年	単元	学習目標	学習活動	評価
1	算数	1. 10以内、20以内の数の読み書きが正確にできる。	1. 10以内、20以内の数の読み書きの練習。	1. 10以内、20以内の数の読み書きの正確さ。
2	算数	2. 100以内、1000以内の数の読み書きが正確にできる。	2. 100以内、1000以内の数の読み書きの練習。	2. 100以内、1000以内の数の読み書きの正確さ。
3	算数	3. 1000以内の数の読み書きが正確にできる。	3. 1000以内の数の読み書きの練習。	3. 1000以内の数の読み書きの正確さ。
4	算数	4. 10000以内の数の読み書きが正確にできる。	4. 10000以内の数の読み書きの練習。	4. 10000以内の数の読み書きの正確さ。
5	算数	5. 100000以内の数の読み書きが正確にできる。	5. 100000以内の数の読み書きの練習。	5. 100000以内の数の読み書きの正確さ。
6	算数	6. 1000000以内の数の読み書きが正確にできる。	6. 1000000以内の数の読み書きの練習。	6. 1000000以内の数の読み書きの正確さ。
7	算数	7. 10000000以内の数の読み書きが正確にできる。	7. 10000000以内の数の読み書きの練習。	7. 10000000以内の数の読み書きの正確さ。
8	算数	8. 100000000以内の数の読み書きが正確にできる。	8. 100000000以内の数の読み書きの練習。	8. 100000000以内の数の読み書きの正確さ。
9	算数	9. 1000000000以内の数の読み書きが正確にできる。	9. 1000000000以内の数の読み書きの練習。	9. 1000000000以内の数の読み書きの正確さ。
10	算数	10. 10000000000以内の数の読み書きが正確にできる。	10. 10000000000以内の数の読み書きの練習。	10. 10000000000以内の数の読み書きの正確さ。

勝川スタンダード



同じ環境

TPC を道具に

整理整頓

使わないときは閉じる

# めざす授業への手順

## 1 単元構成を練り上げる

単元全体の目標を明確にし、その目標に迫るため、単元全体を探究的な構成とする

## 2 習得あるいは活用の授業(場面)かを明確にする

### [習得場面の設定]

- ICT活用による効率的な指導(個別化・最適化)

### [活用場面の設定]

- 課題解決的な授業(思考ツールの活用)

## 3 各授業における、児童に提示する適切な学習目標

あるいは学習課題の設定と必要なICT活用

# 授業改善

【教師の力量向上】

めざす子ども像の育成に向けた教師の力量向上、授業改善の取り組み

## ○ 学年部会

- 研究授業に向けた指導案の検討
- 指導技術の向上を図るため、教材について意見交換 など

## ○ 校内チャットで情報共有

- 日常的に情報共有
- 児童の実態について情報交換
- 教科の特質による授業づくり、指導技術、教材について意見交換
- 授業実践について気軽に報告・蓄積

## ○ 校内授業研究会

- 年3回、研究授業を行い、授業後に協議会をもつ

3年度	各学年	各学期1回
4年度	各学年	各学期1回 (10/28 JAET全国大会公開校)

- 助言者の泰山 裕先生にご指導をいただく

## ○ 実務部会

### ・ 授業づくり部会

必要なICTを必要なときに活用させる・授業づくりICT研修・情報モラル研修

### ・ ICT活用部会

単元構想から、何を習得させるのか活用をさせるのかを検討する。授業のねらいを確認し学習目標(学習課題)を設定し、指導案の作成

### ・ 資料部会

勝川スタンダードの見直し、教室の掲示物の作成 リーフレットの作成

# 研究実践をすすめてきて

## ○ 子どもたちの姿

- 反復学習による基礎・基本の定着
- 児童の関心・意欲を喚起
- わかった・できたの喜び
- 自ら学ぶ楽しさの発見
- 他者との協働による深まり



⇒自己調整する力へ

## ○ 教師の姿

- 校務の情報化から学習の効率化
- 指導の個別化
- 教員全員が協働体制で研究
- AIドリルの効果的活用
- 働き方改革



⇒教師として力量向上

## ○ 保護者・地域の姿

- PTA主催の各種セミナーの運営
- アプリを通じた双方向の情報共有
- 信頼・安心の高まり



⇒学校運営への参加

# 研究の成果と課題

## 成果

- 学習環境を全校統一して整えたため、児童が落ち着いて、また集中して学習に取り組めるようになった。教師は、無駄な指導時間が減り、本来の学習時間が確保できた。
- 授業づくりを単元構想から行き、習得と活用の場面を意識して、学習目標や学習課題を適切に設定することができ、児童が習得した知識・技能をはたらかせて、思考・判断・表現力の高まりが見られた。
- 教師が、目標に迫るために、ICTを有効に活用することができた。
- 教師の力量向上のための取り組みと、ICTを教室に常設し、教師が日常的に活用することで、児童も主体的にICTを活用するようになった。
- AIドリルの活用、各種セミナーや授業参観から保護者・地域への理解が進んだ。

## 課題

- これまでの授業づくりを継続実践し、より授業改善をすすめていく。
- 児童自ら学び合う学習集団へと更に高めるために、教師のサポートの役割を検討していく。

R3 愛知県教育委員会・春日井市教育委員会「ICT推進事業」研究協力校

R4 第48回全日本教育工学研究協議会全国大会(愛知・春日井大会)参加校

# 研究概要

**研究主題** 学んだ知識・技能(習得)をはたらかせて、  
みんなで思考・判断・表現(活用)する勝川っ子の育成  
— 一日常の授業改善を通して —



春日井市立勝川小学校

春日井市は、平成23年度から、全ての児童・生徒の学力の保障をめざして、学習規律の徹底とICTの有効活用を中心としたわかりやすい授業を日常的に展開するための、市内全体で取り組むべき学習指導や学習環境のことを「かすがいスタンダード」と定義し、市内全体で共有し全小中学校への普及をめざしています。その結果、開校113周年を迎え老朽化も見られる本校においても、新しい学校同様のICT環境は平等に整備されています。しかし、学びの土台となる学習環境を全校統一して整え、進展著しい情報化社会に対応し、あるいは、将来、未知の課題に直面する子どもたちに必要な生きる力を育成できているのかと振り返ってみると、十分ではなかったと自省しています。本校児童は、友だちとうまく関われなかったり、自分の思いをしっかりと伝えることを苦手としたりする子どもも少なくありません。このような児童の課題もこの研究を通して解決していきたいと考えました。

そこで、全ての児童の学力保障をめざして、課題解決に必要な知識・技能を確実に習得させ、それをもとにみんなで思考・判断・表現し合う活用の授業に取り組むこととしました。普通の学校が、日常的に少しずつ取り組むこの研究実践が、「かすがいスタンダード」の普及の一助になることを期待して研究に取り組んで参りました。